

| 教育目標 | | のびのびと力いっぱい活動する子どもたちの育成 | | | | | | |
|-------------|---------------------|--|---|---|-------|--|--|---|
| 重点目標 | | 1. 遊びを通した学びを支える保育を創造する。 2. 家庭や地域、小中学校、未就園児等と連携した保育を実践する。 | | | | | | |
| 項目 | 重点項目 | 具体的施策 | 達成目標 | 自己評価 | 成果と課題 | 改善策 | 学校関係者評価 | |
| 学力の向上 | 自ら学び自ら考える力を育む教育の推進 | ・遊びを通して学びを支える保育を創造する。 ・保育力の向上と改善をめざした研究をすすめる。 | ・遊びを通して学んだと捉えられる子どもの姿を視点としたエピソード記録やカンパレンスを発行し、遊びを通して学びを支えることに有効な教師の手立てについて探る。 ・学期に一度、保育を見合う園内研修を進める。 | ・エピソード記録を取りながら、遊びを通して学びを支えるために有効な教師の手立てについて見直し、実践・検証を行う。 ・教職員アンケートで「園内研修で保育力向上につながる学びを得た」の項目でAとBを合わせた回答が8割を超える。 | A | ・エピソード記録を基に、毎月1回カンパレンスを発行。自分とは違う幼児の姿の読み取りや、援助方法を学ぶことにもつながっている。一方で、エピソード記録を通して、本園が考える「遊びを通して幼児の学びの姿」を見たそうとしていたが、幼児の姿の読み取りが職員によって違っており、課題が残る。 ・教職員アンケートで「園内研修で保育力向上につながる学びを得た」の項目がAとBを合わせて100%であった。Aだけでも78%と非常に高かった。 | ・本園が考える「遊びを通して幼児の学びの姿」に、ずれがあると捉えていたが、検証してみると年齢差によるものであることが見えてきた。今年度中に、エピソード記録の学びの姿と、環境の構成、教師の援助をKJ法を用いてまとめる。 ・エピソード研修やカンパレンスで多くの学びを得ていることが分かった。引き続き実施する。 | ・幼稚園で過ごす様子を見る機会が保護者にとって激減しているということは、子供にとって見えてもらう機会が激減していることである。 ・色々な方法を使って情報を保護者とも共有することで、保護者は園での生活を安心して見守ってくれる事につながる。 |
| | 特別支援教育の推進・充実 | ・特別支援教育コーディネーターを中心として、一人一人のよさや違いを認め合い、共に育ち合う子供の育成に努める。 | ・個々の姿から個別指導計画を作成し、全職員で目標や支援方法を共通理解し保育を進める。 ・インクルーシブ教育保育対象児だけでなく、個別の支援や配慮を必要とする子供への理解を深め、全職員で話し合い、保育を進める。 | ・10月中旬と3月末に個別指導計画のまとめを作成し、支援方法の振り返りや子どもへのやり、ねらいへの達成度について全職員で評価する。 ・気になる子供の姿を、その都度全職員で意見交換し、学級経営に活かす。 | A | ・個別指導計画を作成し、それに基づいた保育を展開した。更に、週来の会議で週の個別のねらい支援を具体的に示すことで、全職員で対象児の具体的課題について共通理解することができた。 ・コンサルテーションを利用したり、あすばるでのリハビリを見学させていただくなど、専門機関とも連携を図り、援助の仕方や子供の理解を深めることができた。これらからも子供の理解に努め、それぞれに応じた、援助が行えるよう引き続き、他機関との連携を図ることが必要であるとする。 | ・一人一人の現在の姿を細やかに見ていき、職員間で情報を共有しながら個々の発達段階に応じた支援のあり方やより効果的な手立てについて引き続き学んでいきたい。 ・支援対象児のみならず、気になる子供については今後も他機関とも連携を図りながら、より適切な支援方法を探っていく。 | ・特別支援は子供によって支援することも違うので、今年度のように外部をどう活用することは有効な手立てである。 ・1年後のことも園にも取り組んできたことがうまく引き継いでいけるようになっておいてほしい。 |
| 豊かな心・健やかな体 | 豊かな心を育む道徳教育、情操教育の推進 | ・自尊心や思いやりをほぐす保育を実践する。 ・個人懇談、学級懇談などで子育てを振り返ったり、子供の人権について考え合ったりする機会をもつ。 | ・一人一人の思いを受け止め、友達とのよさや違いを認め合う子供の育成に努める。 ・個人懇談、学級懇談で、子育て中の自尊心や一人一人を大切にすることについて保護者が振り返られる機会をもつ。 | ・保護者アンケートで、「子供は幼稚園で、自信をもってできることが一つでもある」「子供は幼稚園で、他人に思いやりの気持ちをもつことができるようになっていく」の項目で、AとBを合わせた回答が8割を超える。 ・保護者アンケートで「個人懇談や学級懇談などで、子育てを振り返ったり、子供の人権について保護者が振り返られる機会をもつ。」 | B | ・保護者アンケートで、「子供は幼稚園で、自信をもってできることが一つでもある」「子供は幼稚園で、他人に思いやりの気持ちをもつことができるようになっていく」の項目で、AとBを合わせた回答が8割を超える。 ・保護者アンケートで「幼稚園はクラスだよりや個人懇談、連絡帳等で、子供の自尊心や保護者自身を大切にしている。」の項目で、AとBを合わせて9割の回答を得た。クラスだより連絡帳では意識して対応していたが、コロナ禍で個人懇談や学級懇談、人権の保護者研修会等を行うことができなかったことが保護者の不安につながったことが結果になっているように感じる。 | ・コロナウィルスの影響でアンケートをする時期は友達と関わる状況が保たれていないことが困難だったことがB回答が増えた原因の1つと考える。 ・子供たちの具体的な姿が園で見られていないことを、保護者にもっとアピールしていくことの必要性を感じている。 ・子供一人一人が自信をもって見てほしい、聞いてほしいと思うことが多くなるように計画していく。 ・子育て中の自尊心や一人一人を大切にすることについて保護者が振り返られる機会をコロナ禍でも啓発していけるよう考えていく。 | 子供の様子を参観する中で、友達に対しての思いやりの気持ちや助け合っていたようにすることが多く見られていたと感じた。 日々の保育の積み重ねが感じられた。今後も引き続き取り組んでほしい。また、色々な方法で引き続き啓発も取り組んでほしい。 |
| | 子どもの健やかな体づくりの推進 | ・基本的な生活習慣を確立させる。 | ・基本的な生活習慣の確立を図るため、月一回以上ほけんのはなしを実施する。 ・ほけんだよりでの啓発や、けんこうカレンダーを通して保護者と共に取り組む機会をもつ。 | ・月一回以上、ほけんのはなしを実施する。 ・保護者アンケートで「子どもの基本的な生活習慣の確立に向けて、健康カレンダーを活用して家庭で意識して取り組んでいきますか」の項目でAとBを合わせた回答が8割を超える。 | A | ・月一回以上、子供の生活の実態や時期に合わせて内容で、ほけんのはなしを実施することができた。 ・保護者アンケートで「子供の基本的な生活習慣の確立に向けて、健康カレンダーを活用して家庭で意識して取り組んでいますか」の項目でAとBを合わせた回答が8割を超える回答を得た。 | ・基本的な生活習慣において、自ら率先して行うとする子供が増えたが、教師の声かけが必要な場面も多々ある。引き続き、ほけんだよりや健康カレンダーを活用して幼稚園と家庭で一貫した基本的な生活習慣の確立ができるように啓発する。 ・時期や、クラスの実態に合った内容になるよう、職員間で共通理解を図りながら行っている。 | ・基本的な生活習慣において工夫して啓発に取り組んできたことで、子供たちについてきた力たくさんあると思う。引き続き取り組んでほしい。 |
| 開かれ信頼される学校園 | 園情報の積極的な発信 | ・園の情報や教育活動を保護者や地域に積極的に発信する。 | ホワイトボード等を活用し、日々の様子を発信する。 ・子供の様子から、登降園の時等を利用して、保護者の方に必要な事を伝え、連携を図る。 ・クラスだよりを発行し保育の取り組みのねらいや意図を保護者に伝えていく。 ・ホームページを更新することにより、園の様子を発信していく。 | 保護者アンケートにおいて、「ホワイトボードや、クラスだより、ホームページなどで子供の育ちや保育内容がわかりやすく発信されている」と思いますが「園の回答が8割を超える」。 ・今年度は特に保護者と個別に連携していき、子供との育ちを共有し、連携して取り組んでいく。 | B | ・分級登園中は降園時に活動記録の写真を掲示することで、その日の様子を保護者に伝えた。 ・ホワイトボードで、毎日保育の一部を紹介し、発信することを継続できた。 ・クラスだよりでは保護者にも今のクラスの様子を伝えることができた。 ・保護者アンケートで、「玄関のホワイトボードや、クラスだより、ホームページなどで子供の育ちや保育内容がわかりやすく発信されている」と思いますが「園の回答が8割を超える」と思っています。 ・ホームページはできるだけ更新することを心がけているが、多忙すぎてタイムリに更新できなかったことが多かった。 | ・日頃の子供の育ちもホームページにあげていけるように全職員で取り組んでいる。 ・引き続き、ホワイトボードやホームページなどで園の様子や状況がわかるような発信をしていく。 ・必要に応じてクラスだよりも発行し、遊びの取り組みの過程を子供が伝えられるきっかけにしたい。 ・思いに共感してもらったりできるようにしていく。 | ・今年度、園での生活の様子を保護者に見ていただく機会が激減し、子供の育ちが伝わりにくかったという課題見えてきた。今後は、コロナ禍でも、園と保護者が双方向で思いを伝え合えるような発信の方法を模索していくことも大事である。 ・今年度はこのような状況だからこそ、ホームページを見る機会も多かった。そこからたくさん発信を得ることができたと感じるので、このような時だからこそ発信を活用して取り組んでほしい。 ・担任が発信されるクラスが伝えられていたと感じた。そこに書いてある幼児理解が、子供の心や体の大きな成長につながるきっかけになっているように思う。 |
| | 地域との交流 | ・地域の幼稚園として、大事に思っていただけに、連携を図る。 ・小学校、中学校、未就園児など地域と共に育ち合う教育内容の工夫に取り組む。 | 状況と状態を鑑みながら、できるだけであればその時にできる交流の機会を持つ。 ・未就園児、小学生や中学生と園児が交流する機会が持てるようであれば、幼稚園活用を促進する。 ・状況と状態を把握し、未就園児が幼稚園で遊べる機会を一つも持てるよう計画する。 | ・地域とのつながりが継続してきているように地区会等でも、発信していく。 ・必要に応じて、学校等とも連携を図りながら、今、何ができるか、どうすればできるかを模索していく。 ・未就園児の園児獲得につながるようなPRの方法を考える。 | B | ・コロナ禍で、地域や小中学校とも交流、連携を図ることができない状況であった。 ・教師同士など、大人同士の関わりの中では、お互いに気にかけていないなりにできることを考えあおとする機会が生まれた。 ・小学校・中学校とは、ズーム機能などを活用し、担当者会などを開催することができた。今年度は、連携が必要な学校が増えたことにより、就学前の引き継ぎなどの機会が増えた。 | ・本園での交流・連携は次年度で最後となってしまふ。コロナ禍で、どうなるか見通せないところもあるが、できることを見いだしながら、子供に経験させたいことの軸をしっかり持って参加方法や活動内容を決めていけるようにする。 ・引き続き、小学校や中学校との連携を図り、子供があのころの気持ちを持って育つよう、教師間でもより連携が深まるように計画していきたい。 | ・今年度はコロナの為、小中連携の行事が行えなかった。今後も起こりうる様々な感染症拡大のもと、異年齢の交流をどのように行っていくかは課題である。 ・次年度で閉園となってしまふが、地域や学校とのつながりを最後まで大事にしてほしい。 |

学校関係者評価総括
 コロナ禍であるため、幼稚園への訪問も難しく、例年のように直接園児の様子を拝見できなかった為、評価が難しい。ただ、幼稚園から発行される手紙などから例年以上に園児の様子や成長、変化が記載され、園児が、季節、行事、そして仲間のことを思い、成長している様子が伝わってきた。今後も、状況を鑑みながら出来ることを、工夫しながら取り組んでほしい。

次年度に向けた重点的な改善点
 コロナ禍だから出来ないこともありますが、コロナ禍で改善され、出来たこと、新しくなることもあると思う。小中で使用されるICTの活用など、時代に合わせて色々変化していくこともあると思うが、伝統的な季節や行事等も大切にして、新しい生活様式への対応が今後の課題である。